



1991 年 (平成 三年)
10 月 号 (No. 557)

社 団 法 人 日 本 山 岳 会
The Japanese Alpine Club

定 価 一 部 150 円

目 次

“HAT-J” 山岳地域の環境保全に
関する国際シンポジウム
いよいよ開催！……………(1)

海外の山……………(2)

「東ソ連の新天地」
文蔵追憶……………藤平正夫…(3)

ナムチャバルワ通信 (1)
……………重広恒夫…(4)

ナムチャバルワ、上高地山岳研究所
合同募金について……………(5)

東西南北……………(4)

「ヨハネスブルグ便り」「海別岳一流
水の見える山 (2)」ほか
図書紹介……………(6)

「山が楽しくなる地形と地学」「日
本の山岳標高一覧」……………(7)

報 告
「田代山探索山行」「ニヶ岳山と玉
原湿原」「1990 年度資料受入報告
(2)」「天下之霊観碑再建の意義」
「ヒアパーティー」……………(11)

図書室だより (2)、書籍・雑誌受入
報告、寄贈、交換、購入中の雑誌、
定期刊行物一覧……………(13)

会 務 報 告
新支部長紹介、山研・ナムチャ合
同募金応募状況、図書貸出し規定、
ルーム日誌、タンボチェ僧院再建
募金者ご芳名、新入会員 (復活)、
住所・住居表示変更……………(14)

お知らせ

“HAT-J”

山岳地域の環境保全に関する
国際シンポジウムいよいよ開催！

ヒマラヤをはじめ、世界の山岳地域
の自然保護を登山者の立場で考えよ
う、という「山岳自然保護・国際シン
ポジウム東京会議」が、いよいよ十一
月九日、十日の二日間にわたって開催
されます。

日本山岳会をはじめ、日本山岳協会、
日本ヒマラヤ協会、日本勤労者山岳連
盟の四団体が、「あの美しい景観や生態
を守ろう」という思いの下、日本ヒマ
ラヤン・アドベンチャー・トラスト
(略称 HAT-J) に結集して、準備
を進めてきました。

プログラムの「見どころ」は、何と
いってもあの一九五三年、エベレスト

初登頂者、エドモンド・ヒラリー卿や、
これも世界初、八千峰十四座を完登
した超人、ラインホルト・メスナー氏、
それに先鋭的な登山活動のかたわら、
ナショナル・トラスト運動に力を注い
でいるクリス・ボニントン氏など、世
界の一流「大だて者」が参集、その輝
かしい経歴を通して到達した自然観、
保護運動のポリシーを語るところにあ
ります。人類初の八千峰登頂者「処
女峰ナンナプルナ」の著作で岳人の胸
の火をかきたてた、あのモリス・エ
ルトゾーグ氏も、かつてのマラマヤ経
験をふまえたヨーロッパアルプスの自
然保護を語ってくれるはずですよ。

もう一つ、注目したいのは、我々の
仲間でもある日本山岳会京都支部のテ
イリチミール登山における清掃活動の
報告など、現在各方面で広がってき
ている、岳人による具体的な自然保護の
アクションの報告です。その意味でこ
の国際シンポジウムは世界中に同じ思
いの岳人がいるという連帯の思いを深
くし、加えて今後の行動のための情報
交換の場になるでしょう。いずれ HAT
J が、ヒマラヤで具体的なアク
ションをおこなす場合のヒントも得られ
るはずですよ。

白熱した議論、臨場感あふれる現場
報告、美しい映像に集中したあとは、
十一日から十三日にかけて海外からの
ゲストと共に、富士エクスカーショ
ン」が待っています。

会員各位におかれましても、この機
会を逃すことなく、是非参加されませ

◎主要参加者 エドモンド・ヒラリー
卿夫妻 (ニュージーランド)、モリー
ス・エルツォーグ (フランス)、ライ
ンホルト・メスナー夫妻 (イタ
リー)、クリス・ボニントン (イギリ
ス)、P.F.セガンチーニ (UIAA
会長)、キャプテン・コーリー (イン
ド登山財団総裁)、T.C.ポカレル
(ネパール登山協会会長)、リチャー
ド・C.プラム (アメリカ・ヒマラヤ財
団理事長)、エドワルド・ミソロフス
キー (ソ連山岳連盟会長)、許竟 (中
国登山協会副首席)、クマール・A.
ミルザ (パキスタン山岳会会長)、ボ
ブ・マッコネル (アメリカ・エベレ
スト清掃登山隊長) 氏等々……

◎東京会議 昭和女子大学人見記念講
堂他

十一月九日(土) 十二時受付開始、十

▶日本山岳会事務取扱時間
月、火、木、土曜 10時～20時
水、金曜 13時～20時
日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時～20時

お知らせ
電話
3234 六六五九

ようお誘いする次
第です。
参加申込み要領
等については、会
報『山』九月号で
もお知らせ致しま
したが、内容につ
きさらに具体的に
お知らせ致しま

三時開会式、十四〜十七時記念講演
(ヒラリー、ポニントン、メスナー、
エルツォーグの各氏)。十八時〜二
十時歓迎レセプション

十一月十日(日) シンポジウム。(定員
六〇〇名)、九時〜十二時三十分、
分科会 (A)高所登山、(B)トレッキン
グ、(C)山岳観光)、十四時〜十七時
全体会議、まとめ、東京宣言、閉会。

◎富山会議

十一月十一日(月) 十八〜二十時歓迎
レセプション (於富山第一ホテル)
十一月十二日(火) 十時〜十二時E・
ヒラリー卿講演 (於富山県民会館国
際会議場)

◎エクスカージョン

十一月十二日(火)
・Aコース 富山〜室堂泊
・Bコース 富山〜宇奈月泊
十一月十三日(水)
・Aコース 室堂〜黒四〜大町
・Bコース 宇奈月〜黒四〜大町

両コースとも、ヒラリー、ポニント
ン氏等のトラスティーと一緒に歩く。
◎参加費

〔東京会議〕 記念講演会、分科会とも
一日当り二〇〇〇円 (H A T J 会
員は一〇〇〇円)、レセプションは
一〇、〇〇〇円

〔富山会議・エクスカージョン〕
レセプション代、昼食代、宿泊二泊

海外の山

東ソ連の新天地

海外での登山を実行する時の第一の条件は、メンバーの良し悪しでも、経費でもない。

山が存在する国、地域の政治状況だ。

八月の末の「七十二時間クエダーの失敗」で、一層民主化と対外開放が強調された隣の大国ソ連の、東、いわゆる極東地域で、今年になって日本人が次々に新しい山登りを経験している。

カムチャッカ半島最高峰、クリュチェフスカヤ峰(四七五〇m)には、まず三月、同志社大隊が地元ソ連登山家と合同の形で挑戦した。大型ヘリで二千七百mの雪原のベースまで運ばれ、「マイナス二十五度以上には上がらない」寒さの中、不気味な噴煙を見ながらの登山。クリュチェフスカヤは、現役の活火山なのである。日本側三人、ソ連側七人が三月二十九日、登頂した。

同峰には、四月末から五月にかけて女性三人を含む東京雲稜会隊の六人が挑戦、三人が登頂した。また、七月には、北海道日ソ親善協会が派遣した北海道カムチャッカ友好登山隊が、合同登山を成功させている。

長い間閉ざされていたカムチャッカの山に一年のうち日本から三隊もが入り、その最高峰に登頂できたのは、ソ連が変わったからにはかならない。極東では、他にも注目すべき登山や冒険が繰り広げられた。

カムチャッカ計画を変更してサハリン最高峰、ロパチナ山(二六〇九m)をめざした学習院ローガンくらぶサハリン登山隊の七人は、地元の許可がないことを理由に

目的の山への挑戦を阻まれたが、それでは、とサハリン縦断鉄道を北上、北端の山、標高七百mのトゥリ・ブラータ(三兄弟)に登りスキー滑降を楽しんだ。平均年齢五十二歳の山男の、辺境の旅だった。

山の世界とは離れるが、ベーリング海峡を越えることは、少なからぬ探検家の夢だった。ソ連の政治の風向きの大変で、スキー、遠泳などの冒険の形でそれも実現しつつある。

ことし、日大山岳部OBで、日本でただ一人のマツシャー(犬糞つかい)、小島一男は、米、ソ連など六か国の仲間たちとアラスカのノームからベーリング海峡を横断してソ連のアナドリーまで二千二百mの犬糞リースを計画、八人の参加者の一人として四月二十八日、目的地にゴールした。ベーリング海峡自体は、氷が割れ始めたため、ヘリで運ばれたが、友好リースの意義以外にもチュクチ半島の風物の報告など収穫は少なくなかった。バルト三国の独立に象徴されるように、ソ連内部の変化の重要な一つは、「地方」の権限が広がっていることだろう。登山の世界も、今や必ずしもモスクワが全てを決めるわけではない。

当面、「北方領土」に限らず、日本の登山家にとって、「東ソ連」は最も近い海外の山の存在する所を意味することになるだろう。そこでの山登りは、従来のもとの味もふた味も違う。

ヒマラヤでもアルプスでもない新しいエリアの発掘が、社会主義大国の激動と共に始まったことに注目したい。

(江本嘉伸)

海外の山

分および富山く大町までの交通費一切を含み五〇、〇〇〇円 (H A T J 会員は四〇、〇〇〇円) 但し講演会のみは無料

◎申込方法

〔東京会議〕郵便局の振替用紙に必要事項(月日、分科会の場合のセッション名、連絡先電話番号等)明記の上、その金額を振り込んで下さい。折り返し入場整理券をお送り致します。
・九日+レセプション:12,000円

文 蔵 追 憶

六月十二日、芦峯の自宅で文蔵の葬儀が行なわれた。弔辞は七本であったが、書いたものを読みあげたのは二本だけで、ほかはすべて口頭で文蔵に語りかけるものであった。

かもいにかげられた数々の賞状はほとんど遭難救助のものであった。

はじめて知りあったのは、私が十五六歳で文蔵とちようど十年ほど離れていた。彼は若手ガイドの第一人者として次の世代を担うホープであった。当時の現役的第一人者は光次郎で、文蔵は光次郎とことのほか親しく、二人で、平小屋を経営して獵に明け暮れしたりしていた。

講演会のみ……………2,000円

・十日シンポジウムのみ……………2,000円

・フルコース……………14,000円

振替口座番号:東京六―四九四〇五

振替口座名:日本ヒマラヤン・アド

ベンチャー・トラスト

〔富山会議・エクスカーション〕

北陸銀行橋北支店 口座番号 普通

四一二四二四〇番、口座名H A T J

富山会議代表 藤平正夫

◎連絡先:本会事務局または、

藤 平 正 夫

戦後、劔沢小屋を経営するようになってからの付きあいが、何と云っても多くなっている。

東大谷中俣の積雪期以外の第一登の四人のパーティであった。劔沢小屋から黒百合コルを超えて右俣から中俣へ入った。途中から雨となり、完登して平蔵コルへ出たのは夕暮れが近く

なっていた。前劔を下るころは、足もとも見え難くなり、一服劔を下りきったときは八時近くなってしまった。

そのころ劔沢の旧制富山高校山岳部のキャンプでは遭難を懸念して、大騒

ぎで救助隊をだそうとしていた。文蔵

〔東京会議〕〒150東京都渋谷区神宮前

四―三二―七 ☎〇三―三四〇―

四三五四 FAX〇三―三四〇―

六〇三四

〔富山会議〕〒939富山市布市八三六―

二、木戸方 ☎〇七六四―二九―五

二七三

なお、申込みは定員がありますので、お早目にお申込み下さい。

(H A T J 事務局)

が一喝したそうである。

「あいつらは死ぬようなタマではないよ」

小屋へかかる雪渓をトラバースしながらの、私たちのコルが聞こえたのは、ちようどその時であった。

翌年の冬、文蔵が日本医大のパーティとともに中尾根を初登した。

十年ほど前であったろうか、永年の疑問を彼にたざしたことがあった。

「東大谷中俣には、あんたも一緒に登りたかったのではなかったか」

「もちろん。ただ俺がついてくるのを、あんた方がいやがると思ったから」

今さら聞くまでもない愚問だった。そんなことは、とうの昔にわかって

たことであった。彼はただ客を安全に案内するガイドではなかった。より困

難を求めるアルピニストだったのであ

る。

戦後、台湾の山々やニュージールランドのクックを同じ山好きの仲間らと登ったりしたことをみても、そのことがはつきり肯ける筈である。

たしかに彼は、山では不運だったかもしれない。戦前の京大白頭山遠征には芦峯から佐伯宗作が選ばれて同行した。しかし文蔵には、遂にヒマラヤへ行くチャンスは来なかった。

三十五年に富山大山岳部が赤谷山で遭難したときも、同大山岳部長林勝次氏の涙を流しての懇請に、率先して芦峯衆をひきいて豪雪のなか、本当に身命を賭して活動したのも文蔵である。

三十八年の薬師岳大量遭難の際、彼は有峰から太郎平を目指して深雪の中で苦闘を強いられた。朝日新聞の本多君がヘリコプターで、太郎平に先着し、遭難確実の第一報を送った。本多君は前日、富山の拙宅へ来て、山の装備一式を借りていった。朝日のヘリコプターのチャーター料(飛べそうなヘリを全部おさえていた)一日分にもあたらぬ富山県警の救助予算であった。

このことが、富山県警の山岳救助体制に一大転機をもたらした。いまや自他ともに許す、最高水準をもつ富山県山岳警備隊の基礎は文蔵が中心になっ

て創りあげたといつてよい。

晩年は劔沢小屋は若い人にまかせ

て、地獄谷のロッジ連峰の番人をして
いた。悠々、気を使うことなく好きな
山での生活を楽しんでた。

彼の最大の功績は、山岳遭難救助態
勢を築きあげたことである。しかし、
本当に山好きであった彼にとっては、
やはり見果てぬ夢であったヒマラヤ
へ、どうしても登りたかったに違いな
い。

ゆらめく香煙のなかの遺影を、こん
なことをとめどもなく想いだしながら
眺めていると、例の豪快な笑声と大き
な岩崩れが響いてくるような気がして
ならなかった。



ヨハネスブルグ便り

会員番号九九〇三

阪本公一

南アフリカ山岳会(在ケープタウン)
の創立百周年記念パーティーに、山田
会長の代理として出席されたいとのこ
要望、少々荷が重すぎますが、小生も
南ア山岳会の会員なので、出席させて

● ナムチャバルワ通信(1) ●

昨年末の偵察よりあわたたしく準備を進めて来ました
日本・中国合同登山隊も、八月十九日から二十日にかけ
て行なわれた北京会議で双方の準備状況の最終確認を行
いました。既に中国登山協会の担当者も現地での状況把握、
総指揮部の開設準備等のためにラサ入りしています。今
年の中国は各地で大洪水の被害が各所であり、我々のキ
ャラバンルートである派グ^{キヤル}の道路も寸断され、補修
工事が開始されたとの報告も入っております。

九月五日には日本山岳会、読売新聞社、日中友好協会、
日本放送協会(NHK)の四者協催による壮行会もパレ
スホテルで盛大に取り行なわれ、いよいよという感じを
強くしました。十二日報道隊の十二名が十九日には登山
隊八名、報道隊二名が成田を飛び立ちました。総指揮部
の山田総隊長、村木副隊長も十月十日、十月二十日にそ
れぞれ出発の予定です。



日中国交正常化
20周年記念

登山隊メンバー、行動
日程は以下の通りです
が、会員の皆様からの温
かいご声援、個人募金の
ご協力に感謝しながら、
言葉や習慣の壁を超え、

戴きます。

中略

私の南ア生活も五年目を迎えており
ますが、南アは自然に恵まれた国で、
単身生活ながら、山歩きや鱒釣り、自

世界最高の未登山への挑戦を行いたいと考えておりま
す。

日本側登山隊メンバー

総隊長 山田二郎(69)、副総隊長 村木潤次郎(67)、登山
隊長 重廣恒夫(43)、登攀隊長 高見和成(46)、隊員 木本
哲(35)、大西宏(29)、山本篤(28)、広瀬学(24)、マネージャー兼
通訳 梶田正人(30)、医師 小島彰(30)、報道支援隊員 三
輪文一(42)、片岡泰彦(36)

登山隊行動日程

九月十九日 登山隊出発、二十一日 北京へ成都、二
十三日 成都へラサ、二十六日 ラサへ八一鎮、二十七
日 八一鎮へ米林、二十八日 米林へベースキャンプ、十
月一日 登山活動開始、四日第一キャンプ建設、五日
第二キャンプ建設、六日 ラバロ・ルート工作、十日
第三キャンプ建設、十五日 第四キャンプ建設、十七日
第五キャンプ建設、二十三日 アタック隊ベースキャ
ンプ出発、三十一日 第六キャンプ建設、十一月一日
一次隊登頂予定、二日 第二次隊登頂予定、十一日へ十
八日 予備、十二月六日 最終帰国予定

登山隊連絡先

総指揮部 西蔵ラ薩自治区 体委登山協会転南峰登山
隊 電話二二九三四 ファックス二六三二六六
ベースキャンプ 西蔵米林県郵局転大本営 日中南迦
巴瓦峰合同登山隊 (重廣恒夫)

然保護団体のボランティア・ワーク等
に、充分エンジョイした生活を送って
おります。

ナタール州に DRAKENSBURG
という二五〇キに亘る、三〇〇級

の山脈があり、大岩壁と、グリーン・
メドウ、そして自由に歩き廻るエラン
ド、スプリングボック等の動物達の数
多い、素晴らしい山があります。
もっとも厳しい山登りをする体力

も、実力もありませんが、南アのドラックンブルグに魅せられて、既に三十四回も通っております。登山者も少く、ハイキング道以外は山道も余り整備されおらず、明治時代の山登りも、かくありなんと思われる静かな山々が、南アには未だ残っております。

ナムチャバルワ、上高地 山岳研究所合同募金に 就いて

募金委員会

標記の募金に就いては会員各位のご理解を得て着々その成果が挙っており、誠に心強く会報の席を借りてご応募頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

南アに対する各国の厳しいサンクションのため、ヒマラヤ遠征は不可能な状態におかれており、せいぜいアンデスへの海外登山のみという非常に気の毒な南ア山岳会の状況が続いてきましたので、米国はじめ各国の南アに対するサンクションも、近い将来解除され、南ア山岳会のメンバーが、自由に海外遠征が出来る日が、もうすぐ

す。
登山隊の費用は中国隊員の装備等を含め六千五百万円、山研に関する費用は八千万円が見込まれ、合計一億四千五百万円が必要です。(なお、この合計額には、中国登山協会への援助および報道隊(読売)からの援助は含まれておりません。)

この為の収入見込みとしては、政府その他公共資金六千五百万円、経団連関係を含む企業募金と隊員負担金合計五千万円、残る三千万円が今回皆様をお願い申し上げているものとなる訳でございます。

す。

登山隊の費用は中国隊員の装備等を含め六千五百万円、山研に関する費用は八千万円が見込まれ、合計一億四千五百万円が必要です。(なお、この合計額には、中国登山協会への援助および報道隊(読売)からの援助は含まれておりません。)

この為の収入見込みとしては、政府その他公共資金六千五百万円、経団連関係を含む企業募金と隊員負担金合計五千万円、残る三千万円が今回皆様をお願い申し上げているものとなる訳でございます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

会報でご覧頂いている通り、現在約一千万円の会員募金が集計されております。何卒前記の趣旨と応募状況にご理解を賜り、ご協力の程お願い申し上げます。

やってくるものと希望している今日この頃です。日本・南アの文化・スポーツ交流も自由になり、日本山岳会、南ア山岳会がより親密な交流を行なえることを祈っております。

記念パーティー出席後、当日の様子は、ご報告させて頂く所存です。
(七月二日付 松田副会長宛)

海別岳

流水の見える山(2)

田中三郎

三月十九日、私たち四人は七時十分のち晴れと報じていた。除雪された農道を十分も走ると登山口に着く。ここで輪かんを履き、スキーストックを持って準備を整え、七時三十分、川越君を先頭に出発した。登山口の積雪量は一六〇センチくらいだった。

海別岳から西北に延びる海別川右岸の緩やかな尾根に取り付き、落葉した雑木林の中をゆっくりと登ってゆく。足は少しもぐるが、雪質は軽い。沢を二度渡り、高度六〇〇メートルに達すると、風がにわかに冷たくなった。

さらに一時間足らず緩い登りを続け、高度七三〇メートルあたりで森林限界に

達した。ここからは強い風をもちに受けるので、セーターとゴアテックスの雨着を着る。森林帯を抜けてからは雪がだいぶ締ってきたが、風は地吹雪を上げて横なぐりに吹きつけてくる。輪かんをつけているので足はもぐらないが、強風に体が流され、手にしたストックも吹き飛ばされそうだ。川越君は下山に備えて所要所の雪面に赤会符をつけた小枝を埋めてゆく。

十時五十五分、一一〇〇メートルのコブに付き、五分間、強風の中でパンをかじって軽食をとる。テルモスの熱い紅茶に生き返る思いがした。空はどんよりと曇り、地吹雪で遠目はきかないが、北峰がおぼろに見えた。

傾斜が急になり、雪面にはエビのシッポのような形の荒々しいスカブラが発達して、歩きにくい。輪かんが滑るので足で蹴込むと、そのたびに内股に軽い擦傷を覚えた。仲間に揉んでもらい、無理せずマイペースで登るうちに痛みは消えた。

十二時二十分、北峰に登り着いた。本峰との間には鞍部があり、北側に雪庇が張り出した幅数分の稜線が続いている。こ



ここからは川越君とアンザイレンし、強風の中を進む。氷柱を横たえたような例のスカブラが登路に広がっている。本峰の直前でまた内股に痛みが走った。深呼吸を繰り返して、ペースを落として頂上に到達した。

頂上へは強風のために雪が少なく、一等三角点の標石は頭を出して、それに一歩ほどの厚さの氷の膜が張りついていた。国土地理院の標柱も雪面から現れていた。川越君も海別岳の三角点に触れるのは初めてだと言う。薄曇りで視界はきかず、数葉の記念撮影も風のためにカメラがぶれそうだった。

十二時五十五分に下山を開始した。北峰に一時五分着。アンザイレンを解いただけで、休まずに下降を続ける。天気予報のとおり、数分後に突然風が止み、晴天が広がった。青灰色のオホーツク海に流水が集まっているのが眺められた。

一一〇〇坪のコブで休憩をとり、一気に下って四時二十分、管理センターに帰着した。

この山行で私の体重は二キ減ってしまった。
コースタイム 管理センター(車10分) 〓登山口(1時間55分) 〓森林限界・七三〇坪付近(1時間5分) 〓一一〇〇坪のコブ(1時間20分) 〓北峰(15

分) 〓海別岳本峰(10分) 〓北峰(3時間10分) 〓登山口(車10分) 〓管理センター

新入会員の弁

奥村 一郎

久保孝一郎氏、望月達夫氏の紹介で会員となりました。六月六日皇海へ登って、夜ようやく庚申山荘へたどり着いた翌日は快晴で、昨夜の雷雨で濡れた衣類を乾かしている間、土間、バルコニー階段の掃除、焼却炉の廻りに散乱しているゴミ類を不燃は台所のゴミ袋へ、可燃は焼却炉へ入れてフタをした。会報によれば偶然H A T J の清掃週間であった。今後もJ A C 会員の標度を保つべき体力の維持に努めた。

中村テル名誉会員

住所変更

南オーストラリア、アデレードに在住の中村名誉会員より次のような連絡がありました。

留学生を預かる仕事にピリオドをうち、町と山が見えるグレネレグに引っ越しました。海辺の一流ホテルの四階で、海辺にあり、遠くに山が見えるの

が引越しの第一の理由です。

毎月一度位、あちこちで日本のクリスチャニティーとか神教とキリスト教の違いなどを話しています。十一月には再会したいと思っています。

(八月二十八日付 松田氏宛)

〔新住所〕Tel Nakamura (Satow)

Unit 44, Grand Hotel, Jetty Rd,

Glenelg, S. A. 5045 AUSTRALIA



図書 紹介

山が楽しくなる

地形と地学

広島三朗著

本書は著者の長年にわたる登山の体験より得た知識と、専門ともいふべき地学とを結びつけた本当にためになる楽しい読物とした自信作である。その意図するところは、山に関する地形と地質に関する知識を学び知ることにより「山、それ自体がおもしろい！」存在なのだ、ということを知って、高山植物や動物などと同じように、山登りをさらに楽しいものたらしめようとし

ているのである。

事実、通読してみると最初に地形、地質の基礎的、体系的な知識の解説がなされ、一応の知識を与えた上で、日本の山々で実地の形で説明が加えられ面白い。いずれも解りやすく初心者も素直に学べ、かつ専門家でも始めて知ることと数々あるように思われた。従ってその構成は、第一部「山の地形と地質を知ろう」と第二部「地形と地質を訪ねる観察登山案内」の二部からなっている。

第一部は①日本列島のおいたち、②火山―マグマがつくる山々、③岩石―山をつくる岩石を吟味しよう、④水河・周水河作用がつくる地形、⑤河川の争奪と湖沼、湿地、⑥山で見られる断層地形、⑦温泉のメカニズムの七篇。その内容は、日本列島を形づくった地殻プレートの動き、不可思議な氷河、断層、氷河、高層・低層湿原、温泉などのメカニズムなど、悠々数億、数千万年という気の遠くなるような遙かな太古から生き続けている自然界の輪廻と、現実の今の地形、地質とを頁ごとに写真と図版を使って上手にオーバラップさせている。

第二部では、前述のように第一部の応用編とも言うべきもので①仙丈岳・甲斐駒が岳、②白馬岳、③燕岳、④立山の四地区でガイドも兼ねて復習し

て、学習の強化を計っている。
著書の広島氏は、K2の登頂者として名高く、大学では地理学を学び現在は高校教諭。かつては本誌の編集委員でもあった。

とにかく、著書のいう「本当のことを知らないのは登山者だけ」とならないよう、本書の一読をおすすめする。

一九九一年九月 新書版 山と溪谷社刊 本文二四五頁 定価八〇〇円 (小倉 厚)

日本の山岳標高一覧

— 一〇〇三山 —

国土地理院刊

国土地理院は、平成元年六月三日の「測量の日」に、第一次の中間報告として「二五〇〇メートル以上の山」の標高等の見直し、翌年は高さで切らずに、全国的な主要山岳の標高等の見直しを行って発表した。(公報五三〇号、五四二号参照) 最終年度の本年八月、この二回の中間報告を踏まえて、北海道から沖縄、南西諸島まで、離島の山

も含めて一〇〇三山とその属峰にあたる五十五山の最高点の確定および山名の確認、訂正、追加を行い、『日本の山岳標高一覧—一〇〇三山—』という本として公表した。

九十ページにおよぶデータ表(各山の山名、所在、標高、経緯度、二万五千分一地形図名、都道府県、三角点名及び備考の一覧表)は、二万五千分一地形図中の当該山岳のデータ原簿に相当するもので、山頂に標高数字の表示されていないものや、最高点と三角点の位置が相違しているもの一三八山と、山名のない五山は逐次地形図上の表示が変更/追加される。(標高値が改正された山の一覧は別表で掲載されている)その他に一次、二次中間報告の際に発表されたリストも収録され、完備した索引とともにさまざまな利用の仕方が可能である。巻末には約二百万分の索引地図が付けてあり、一〇〇三山の位置を確認できるように配慮されている。

なお、この作業は国土地理院の発意により始まり、「山の高さに関する委員会」を組織して行なわれた。国土地理

ナムチャバルワ峰登山
上高地山岳研究所改築

合同募金に協力しましょう!

院側の調査担当は測図部地形課の石渡課長、管理課の長岡正利課長*、辻専門職他数氏。委員会委員は、五百沢智也委員長*小崎 尚*、鎮西清高、平林国男、望月達夫*、西丸震哉*、児玉茂*の各氏。(*印は日本山岳会員)

報告

田代山探索山行

— 湿原と高山植物 —

七月二十日は生憎の雨であった。十時半会津高原駅に集合した参加者は、福島支部の方が用意して下さった二台のマイクロバスに分乗し、緑あふれる会津高原を駒止湿原に向かう。途中雨は一段と激しくなった。

も手元に置くべきものと思う。入手の方法は、地形図販売店か、または(財)日本地図センター(〒一五三 東京都目黒区青葉台四一九一六)へ代金一五〇〇円と送料三一〇円を添えて直接注文して下さい。

(児玉 茂)

科学研究委員会

である。またチシマザサやフキの葉をまるくまとめて沢水を飲む方法も教えて頂き、一同子供に返って葉っぱのコップ作りに興じたりした。

峠の茶屋について昼食をとる。バスで湿原入口下車、小荒井先生の説明を伺って歩き出す。幸い雨は小降りとなり、ガスの中にひろがる緑の湿原はなかなか捨て難い風情がある。花の盛りは過ぎて少々淋しいが、それでもキンコウカやモウセンゴケ、ミズギク、ミズギボウシ、タテヤマリンドウ、コオニユリなど見ることができた。高層湿原は、低温のため枯死した植物がなかなか腐らず泥炭化し、それが堆積して出来たもの、だんだん乾燥してくると笹やレンゲツツジなどが生えてくる由

夕方湯の花温泉旅館清滝に着き、早速入浴、熱く透明な温泉である。その後広間で、川魚の刺身やマスの甘露煮、イワナの塩焼などの並ぶ夕食の膳につく。七時から小荒井先生の講演、雄国沼のニッコウキスゲの群落や、ヒメサユリ、ミズギク、サギスゲ、ムラサキヤシオ、コブシ、また二重の虹や佐渡の燃えるような夕焼空など、ブローニー版のスライドを特製のプロジェクターでうつし出し、迫力ある美しい画面とユーモアあふれるお話に、みなひきこまれてきき入った。そのあとビールや福島支部差入の日本酒を頂きながら賑やかな懇談会となった。

二十一日朝は見事に晴れ上り、朝食後宿の前で記念撮影の後、バスで登山口へ。小荒井先生は残念ながら今朝帰られるので、今日の講師は宅間清子委員となる。田代橋に着き、八時三十分

帝釈山を目指す九名が先発し、あとは支部の野地会員を先頭に登り出す。陽が照りつけて暑くなり、雨のあとの道は滑り、そしてなかなかの急登である。眺望がひらけ日光白根、太郎山、男体山、大真名子、小真名子、女峰山などの連山が見える。急坂の先に鮮やかな

ニッコウキスゲの群落が目にはいったと思うと目の前がひろびろと開け、頂上湿原であった。さわやかな風が汗ばんだ肌に快い。木道に集まって宅間委員の説明を聞く。下足にはキンコウカやイワシヨウブが咲き、モウセンゴケも小さな花をいっぱい咲かせている。ところどころに池塘が点在し青空をうつつしている。湿原をぬけた樹林の中に山頂の弘法堂が建っている。その先の樹林の中を進むと、木の間にピラミットのような帝釈山の姿が見えた。

ここで一時間半の自由時間、それぞれ眺めのよい所に陣取ってお弁当を食べ、湿原を散策し、写真をととり、スケッチをしたりなどする。七ヶ岳博士山、荒海山など会津の山々や塩原の山が湿原の彼方に紫色に浮かび誠に美しい眺

めであった。十二時半弘法堂前に集合、丁度、長老鳥居亮会員を含む帝釈組が戻って来た。

帝釈紀行

二十一日朝、原田、斎藤、田辺、白鳥、佐久間、鳥居、石田、北野、千葉の一行九名は一足早く田代橋を出発、急坂を休みなく登り、田代平に九時五十分着、小憩を持ち、汗も引込んで、ニッコウキスゲやキンコウカの原を行く。

十時、弘法太子堂では仲間による般若心経の読経を済ませ、敬虔な気持ちで帝釈山に向かう。少し倒木もあり泥道もあったが、十一時五分、二等三角点のある帝釈山二〇〇六坪の頂上に立った喜びは大きかった。三六〇度の好展望。燧、平ヶ岳、会津駒、日光、会津の山々をほしのままにして、昼食をとる。往路を戻り、弘法堂に十二時三十分着、本隊と合流した。

(この項 千葉重美記)

全員十四時登山口に下山、清滝に戻って温泉で汗を流した後、バスで会津高原駅に向かう。思いがけない快晴に恵まれて、いのちの洗濯をしたようなさわやかな一日であった。小荒井先生および終始お世話頂いた笹川さんはじめ福島支部の皆様にご心からお礼申し

上げます。

(中村あや)

(参加者) 講師 小荒井実 会員 望月計市、林桂子、原田衛、北村義男、伊藤主税、賀嶋増造、中村あや、斎藤敏男、三沢二三、菅野弘章、鈴木快信、中川久、三宅次郎、近藤雅是、南井英弘、佐々木誠、和田民子、田辺史、鈴木嶋夫、一般 白鳥勝治、樽沢弘一、高沢容子、高橋恭子、田沼玲子、佐々木順子 福島支部 笹川慶子、西関良光、白石田春治、佐久間高男、八巻和男、野地克也、河上鏡治、大内賢治、佐藤一夫、高野加代 科学研究委員会 中村純二、鳥居亮、石田要久、北野忠彦、松丸秀夫、宅間清子、石井恵美子、高橋詢、奥野道治、千葉重美 以上四十六名

自然観察山行

ニヶヶ禿山と玉原湿原

自然保護委員会

自然保護委員会では恒例の自然観察山行を、本年は去る九月一日(日)、奥上州の玉原高原のニヶヶ禿山(一四六六坪)と同地区の湿原で行った。

当日は台風(十四号)一過、快晴。貸切りバスで新宿西口を午前六時三十分予定通り返発。参加者三十三名(別掲)。車内では横山リーダー司会のも



ニヶヶ禿山中腹にて (大森弘一郎)

とに大森自然保護担当理事、池田自然保護委員長の挨拶、麦倉委員の玉原高原の説明などが行われつつ、バスは関越道をひたすら北上。台風の名ごりの利根川や片品川の濁流を眺め、沼田インターからは迦葉山、そして現地玉原湖の巨大なロックフィルダムを左に見てほだなくセンターハウス着は午前九時過ぎ。

早速、センター前で参加者の自己紹介、中委員指揮による軽い準備体操のあと、この地区の西の雄峰・ニヶヶ禿山を目指す。今回の講師は田村説三氏。道々、その場所に応じた適切な植生の説明を聞きながら登る。玉原高原はいわゆる奥上州にある標

高一二〇〇〜一三〇〇の高原で、その中には大小六つの湿原と、日本海側多雪地帯に分布するブナの自然林が豊富に存在するかつては秘境中の秘境であった。しかし近年玉原湖の出現と山岳道路の整備によりリゾートエリアとして注目されだし、自然破壊が心配され始めた地域でもある。

玉原湖北岸をへてトンネル手前から本格的山路に入る。一带は見事な自然のブナ林とその下草のチシマザサで、自然観察とともに不思議な心の安らぎを覚えつつ登る。藪こぎも予想されたが、意外にも道はよく刈払われ、その心配もなくほどなく、赤城を中心とする上州の山々の眺望に優れた尼ヶ禿山の山頂に達し、昼食。

昼食後の下山に当ってハブニングが起きた。以前リーダーが訪れた時なかった鉄塔巡視路が出来ていたため、ついその方向に引きこまれ、最後に引返すということになり約三時二十分のロス。したがって山行と湿原観察に三時間ずつ、半々の時間を予定していたが、このロス時間のため、湿原観察は一ノ原地区のみの約三分の駆足観察となった。湿原は既に雑木の入りこむ中間湿原の様相を呈していたがそれでもヌマガヤ、ウメバチソウ、キンコウカ、タムラソウ、トリカブトなどで観察してまわった。

1990 年度資料受入報告 (2)

資料委員会

番号	品 名 種 類	受入月日	寄 贈 者	保管場所	
675	皮毛袋 2本指 (茶)	90.10.19	植 恒 治	大 町	
676	オーバーシューズ (クリーム色) 羽毛ボア入り	"	"	松 本	
677 A	毛糸靴下	"	"	"	
" B	"	"	"	大 町	
" C	"	"	"	"	
678 A	ゲートル (黒) ウール	"	"	本 会	
" B	" (カーキ色) "	"	"	大 町	
679	マットレス (大) ゴム引き	"	"	"	
680	お茶缶 (布ケース付き)	"	"	本 会	
681	ゼルブスト 安全環ビナ付き	"	"	大 町	
682	黒皮書類入れ (小型) 折りたたみ式	"	"	"	
683	さく葉板 (2枚1組)	"	"	"	
684	日の丸 (マナスル遠征隊へ・寄せ書き入り)	"	"	本 会	
685	ニッカーズボン (黒) ウール	90.12.10	"	大 町	
686	ジャケット	"	"	"	
687	写真	8枚	90.10.19	"	本 会
694	キャラバンシューズ	ナイロン製 2足	"	"	松本、大町
	折りたたみ携帯椅子	1ヶ	"	"	松 本
	皮ポストバック (茶)	1ヶ	"	"	"
	皮小型トランク (茶)	1ヶ	"	"	"
	写真 モノクロの古いもの	13枚	90.10.19	田 畑 真 一	本 会
	「神面」木彫り	1	90.11	高 千 穂 町	松 本
	三州台ウェストン祭ポスター	1枚	"	宮 崎 支 部	
	カッターシャツ (ガストンレピュファアのサイン入り)	1枚	"	遠 田 栄	松 本
695	写真 (剣御前小屋の秩父宮殿下) 1枚	90.12	松 田 雄 一	本 会	
	ワッペン (ナンダデヴィ、インド日本合同登山隊使用 1976)	1枚	"	伊 丹 紹 泰	松 本
	写真 (米国ナンダデヴィ登山隊によるナンダデヴィ 1979)	1葉	"	"	
	記念1合研 (エベレスト北壁登頂者サイン入り)	1ヶ	"	"	松 本
	芦安村々誌資料目録コピー	"	"	芦 安 村	
	テープ (伴野清、三井嘉雄、田畑真一の会見談)	1巻	"	田 畑 真 一	
	三田幸夫氏の日記帳 1冊	91.2.	"	田 口 二 郎	
	「スキー技術」16ミリフィルム映画 1940年	1巻	"	"	フィルム委
	自然保護全国集会の寄せ書き色紙 於三島市「箱根の里」	1枚	"	長 田 義 則	

1991. 6. 30

今回の観察山行は湿原の観察は時間が短かく残念であったが、玉原高原は土壌安定地区にはブナを中心とするミズナラ、カエデなどの林、攪乱地にはハンの木類、谷筋にはサワグルミ、トチ、ホウといった典型的な林相が観察され極めて有益であったこと、そして前述のハプニングにもかかわらず、参加者のなかには、かえって自然のブナ林をじっくり心ゆくまで観察できたなどの意見も聞かれ、さすが自然観察山行に参加する会員だと感心させられた。

予定を一時間ほど遅れての五時十五

天下之靈観碑再建の意義

越後支部長
佐藤一栄

雪国越後の生活習俗や、雪に因んだ奇談、逸話等を精妙な絵と風土記調の随筆でまとめた『北越雪譜』が、天保十二年(一八四一年)に刊行された。著者は越後国塩沢の鈴木牧之で、彼は文化八年七月に、交遊のあった文人墨客や従者を伴って苗場山に登り「苗場山は越後第一の高山なり」に始まる探訪記を同書に載せている。それによれば仏教や修験の信仰登拝とは趣きの

分センター出発。車中、JACCの委員会についての話やHATJのPRなどが行われながら、新宿着は午後九時過ぎ、ただちに解散。(なお、本日の感想は後日委員会事務局へ、の取決めもあり)

参加者 国見、中、山口(悠)、大森(二名)、松丸、黒沢、小倉、遠藤、池田、横山、金谷、祖父川、梅本(知)、中井、菅野、和田、賀嶋、坂尾、松本、松本(徳)、菅沼、関塚、平沢、田村、伊藤、篠原、篠原(義)、麦倉、小林、高嶋、長谷川、帰山

変わった山登りを、今から百八十年も遡った昔に行っているが、これは現代登山のいわば草分けとも見られよう。そうした登山に感銘を受けた日本山岳会名誉会員(第二代会長)の高頭仁兵衛氏と、同じく名誉会員大平晟氏が発起人となり、昭和十五年に同山神楽ヶ峰の巖上に高さ三層の顕彰碑を建立した。建設地の選定については木暮理太郎、武田久吉氏らも協議に加わったという。

碑面には「題苗場 天下之靈観 鈴木牧之先生遺跡追頌標」とあり、側面に紀元二千六百年記念 日本山岳会名誉会員高頭式建之 大平晟筆 小千谷小杉刻と記されて、苗場山を訪れる登

予定を一時間ほど遅れての五時十五分(小倉 厚)

Books & Videos in the World

Books

- AAJ 1991 定評あるアメリカ山岳会年報の1991年度版。世界の登山動向を一冊に網羅 386 P ¥4,200
- Exploring Hidden Himalaya by S. Mehia & H. Kapadia インド・ヒマラヤの案内書。文献リスト付 172 P ¥6,800
- High Asia by J. Neate 7000m以上の高峰の画期的な案内書。未登峰リスト付 213 P ¥8,800
- The Trekking Peaks of Nepal by B. Oconnor トレッキング許可で登れる5千~6千m峰18座 224 P ¥5,200
- High Alaska by J. Waterman アラスカ三山の主要ビッグルート40を豊富な写真で解説 398 P ¥6,000
- Bugaboo Rock by R. Green & J. Bensen 花崗岩塔が林立するバガブー山群の200ルートをガイド 192 P ¥4,200
- The Peruvian Andes by P. Beaud 100本の登攀ルートと40本のトレッキング案内 307 P ¥5,200
- Yosemite Climbs by G. Meyers & D. Reid 1987年に改訂されたヨセミテのクライミングルート図集 450 P ¥5,200

Videos

- KONGUR 英国のC・ポニントンら4人によるコングール初登頂 1981年 30分 ¥7,800
- Everest (The Last Unclimbed Rigde) 1982年春のC・ポニントンらの東北東稜の記録 1982年 53分 ¥8,200
- The Conquest of Everest 1953年春のE・ヒラリーとテンジンによる初登頂 1953年 78分 ¥8,200
- Out of the Shadow into the Sun アルピニスト必見のアイガー北壁ノーマルルート登攀 1970年 50分 ¥7,800
- EL Capitan エル・キャピタンのノーズを登る4人の姿を追った多数の賞を受賞した名作 1970年 60分 ¥9,800
- Basic Rock climbing ジョン・ロング自作自演のビギナー対象の技術紹介ビデオ 1987年 43分 ¥6,800
- Art of Leading J・ロングによる上級編技術ビデオで5.9から11.12へのリード技術 1988年 50分 ¥6,800

- 紹介しました洋書、ビデオを限定期間につき取り次ぎます。
- 価格は送料、税込み価格です。ただし円が大幅に変動したときは価格変更する場合があります。
- お申し込みは、書(ビデオ)名、冊(本)数を明記のうえ、郵便振替か現金書留にて、直接小社へお申し込み下さい。
- 船便にて取りよせとなりますので、ご注文者に届くのは2か月位かかりますのでご了承下さい。
- ここに紹介しました洋書、ビデオは書店への注文はできません。



★お申し込み期限 12月末日迄
★ビデオはすべてVHSのみ

白山書房

東京都目黒区駒場4-7-8
☎3485-1309 振替/東京2-29488

山者に、先蹤者の遺徳を偲ばせるモニュメントとして親しまれてきたが、落雷か積雪の圧力かで、いつの頃か折損倒伏し、地元の塩沢山岳会が補修したものの、再び破損放置されたままで、かねてより同会から懇請があり、建立の由緒も日本山岳会との繋りが深いことから、山の文化遺産としても貴重な石碑の修復を、当越後支部が手がけることになった。

当初は破断面を接着させればと安易に考えていたが、検討した結果、そのような修理では到底長年月の風雪に耐え得ないと分り、新たに原型と同じ仙台石に拓本の文字を彫刻して再建することになった。

しかし現地が二千以上の山上で、また国立公園の特別保護地域に指定されているため、管轄営林署との折衝や、重量一トを越す石碑の運搬方法などの難



再建なった顕彰碑

これからも苗場に登る大勢の人々が、山上の景観とともに永く記

問山積で、一時は途方に暮れたが、再建実行委員長である新潟県山岳協会長の室賀輝男氏をはじめ、県内各地から参加した当支部会員たちの献身的な協力で、関係機関の許可をいただき、ヘリコプターによる石碑空輸も実現となり、残雪を踏んで登った六月上旬から延べ百名を越える人々の奉仕と、四回に亘る建設作業を進めて、七月十四日に宿願の靈観碑建立を達成することができた。

梱包の木枠や麻袋を外し全容を現した石碑は、磨き上げられたダークグレーの碑面に、天下の靈観と刻まれた文字も鮮やかで厳然と空を指し、半世紀前の高頭翁の笑顔を偲びながら、みんなで御神酒を頂いて完成を祝ったが、県山岳協会名誉会長の五十嵐篤雄氏や新潟税務署長の上田幸雄氏など、セメントや砂利、基石掘削用の発電機、足場作りの資材運搬等々に汗を流した、山仲間のご苦労には頭の下がる思いで今も感謝の気持ちで胸が熱くなる。

憶にとどめてくれるであろう石碑の再建は、また支部活動の記念碑でもあり、関係各位の懐かしい語りぐさともなってくれるに違いない。

再建計画に賛同して、浄財を醸出くだされた大勢の岳人や登山団体に、ご報告旁々、厚くお礼を申し上げます。

〔報告〕ビアパーティ

九月七日(土)五時より、女性懇談会主催のビアパーティは、五十名の方々をお迎えして開かれた。

開会前のショートスピーチは、小倉茂暉氏によって「改築になる山研について」の詳しいお話。次に乾杯の音頭を松田副会長にお願いして、その後テンプル一杯に並んだごちそうとビールをお互の親しい語らいと共に頂く。楽しい歓談のうちにも時がきて、七時一応閉会となったが、七時半頃まで語り合いは尽きなかった。

今年に残暑が長くほどよくビアパーティにふさわしい陽気で、初めてこの会に出席した方達も、この和やかな雰囲気にもまれて有意義な時を過ごすことが出来た。

(柴沼武子)

図書室だより (2)

▼出版間隔が一年以内の雑誌、定期刊行物のうち被寄贈、交換、購入中の受入れは海外雑誌を含めて次頁の六十四種です。その他に不定期刊行物、特に各山岳会/山岳部の会報部報類が一〇〇種以上ありますが、「雑誌総目録」の中で扱う予定です。

解説の必要な各雑誌の歴史、背景内容や所蔵号の期間等は順次この欄で説明して行くことに致します。

なかには日本山岳会以外には所蔵されていない珍しい雑誌もありますので是非ご来室下さい。

▼二七四七枚の二万五千分の一地形図(発行年は昭和四十六年〜六十二年)を本年八月に武田満子、松永康子両氏より寄贈して戴きました。これで一気に六割分が揃い、全枚を揃える目途が立ちました。北海道を除いて主要山岳地帯は既に揃っておりますので登山計画の参考に不自由はないと思われれます。専用地図ケースに収納し何時でもご覧になれますのでどうぞご利用下さい。

▼日本山岳会図書室の地図コレクションも次第に充実してまいりました。なかでも海外の「山岳地図」は各地域別

―十三頁へ続く―

書籍・雑誌 受入れ報告 1991年 8月

著者	書名/雑誌名	版型・ページ	出版元	出版年	寄贈/購入別
茂木完治・手嶋 亨	沢登り読本	B6/223pp	東京新聞出版局	1991	発行者寄贈
南硫黄島地域調査隊編	南硫黄島原生自然環境保全地域調査報告書	B5/404pp	環境庁自然保護局	1982	山瀬一裕氏寄贈
横 有恒	横 有恒全集III 静寂	B6/375pp	五月書房	1991	発行者寄贈
広島三朗	山が楽しくなる地形と地学	新書版/245pp	山と溪谷社	1991	発行者寄贈
自然公園美化管理財団編	新・美しい自然公園 8 阿寒湖	A4/48pp	自然公園美化管理財団	1991	発行者寄贈
自然保護協会編	自然観察ガイドブック42志賀高原岩菅山	B6/54pp	自然保護協会	1991	発行者寄贈
朝比奈英三	虫たちの越冬戦略	B6/161pp	北海道大学図書刊行会	1991	著者寄贈
久保信一/古川篤編集	白山私攷 久保信一遺稿集	B6/90pp	山路書房	1991	編者寄贈
藤田健次郎	ひとり歩きの金剛山	B6/254pp	山と溪谷社	1991	発行者寄贈
小川清美	スイスアルプス・ハイキング案内	B5/224pp	山と溪谷社	1991	発行者寄贈
群馬県山岳連盟編	群馬岳連50年誌	B5/297pp	群馬県山岳連盟	1991	八木原園明氏寄贈
岩田修二	長野県上高地における現在の地形変化と地形災害危険度地図の作成	B5/51pp+地図2枚	1991	著者寄贈	
文藝春秋編	植村直己記念館	B5変形写真集/206pp	文藝春秋	1991	発行者寄贈
建設省国土地理院	日本の山岳標高一覧 -1003山-	B5/145pp+索引図	国土地理院	1991	発行者寄贈
文部省	楽しい登山 中高年の安全な登山のために	A5/143pp	文部省	1991	発行者寄贈
永田芳男	山溪フィールドボックス3 秋の野草	B6変型/383pp	山と溪谷社	1991	発行者寄贈
柏瀬祐之	ヒト、山に登る	A5/188pp	白水社	1991	発行者寄贈
日本山岳会東海支部編	日本山岳会東海支部ガングスタン報告書	B5/60pp	日本山岳会東海支部	1991	鈴木常夫氏寄贈
山形山岳会編	山形山岳会70周年山小舎30周年記念誌	B5/372pp	山形山岳会	1991	発行者寄贈

寄贈、交換、購入中の雑誌、定期刊行物一覧

山と溪谷	(山と溪谷社)	山書月報	(日本山書の会)
岩と雪	(山と溪谷社)	地図ニュース	(日本地図センター)
ピスターリ	(山と溪谷社)	月刊古地図研究	(日本地図資料協会)
岳人	(東京新聞出版局)	日本山岳写真協会ニュース	(日本山岳写真協会)
クライミングジャーナル	(白山書房)	Alpine Journal	(The Alpine Club)
ヒマラヤ	(日本ヒマラヤ協会)	Geographical Journal	(Royal Geographical Society)
新ハイキング	(新ハイキング社)	Mountain	(Mountain Magazine, UK)
登山時報	(日本勤労者山岳連盟)	Die Alpen	(Schweizer Alpen-clubs)
登山月報	(日本山岳協会)	Die Alpen Quartal	(do.)
都岳連通信	(東京都山岳連盟)	Akademischer Alpenclub Bern	(Akademischer Alpenclub Bern)
長野県山岳協会ニュース	(長野県山岳協会)	UIAA Quarterly Bulletin	(UIAA)
兵庫山岳	(兵庫県山岳連盟)	Mitteilungen DAV	(Deutscher Alpenverein)
山岳おおさか	(大阪府山岳連盟)	Berg	(Deutschen und Österreichischen Alpenverein)
いこいの山岳会月報	(いこいの山岳会)	Mitteilungen OEAV	(Oesterreichischer Alpenverein)
一等三角点	(近畿山岳愛好会)	Österreichische Alpenzeitung	(Österreichischen Alpenklub)
京都山岳	(京都山岳会)	Der Bergsteiger	(Bergsteiger Magazine, München)
低山	(低い山を歩く会)	Alpin	(Alpin Magazine, München)
山	(横浜山岳会)	La Rivista del Club Alpino Italiano	(Club Alpino Italiano)
OMCレポート	(奥多摩山岳会)	La Montagne et Alpinisme	(Club Aipin Français)
日ネ協会会報	(日本ネパール協会)	Montagne et Sports	(L'Ecole Nationale de Ski et d'Alpinisme)
月刊インド	(日印協会)	American Alpine Journal	(American Alpine Club)
ブータン	(日本ブータン友好協会)	Sierra	(Sierra Club)
極地研ニュース	(国立極地研究所)	Climbing	(Climbing Magazine, USA)
極地	(極地研究振興会)	Canadian Alpine Journal	(Alpine Club of Canada)
聳嶺	(一等三角点研究会)	New Zealand Alpine Journal	(New Zealand Alpine Club)
山の気象研究会ニュース	(山の気象研究会)	Journal of Mountain Club of South Africa	(Mountain Club of South Africa)
山と博物館	(大町山岳博物館)	Himalayan Journal	(Himalayan Club)
国立公園	(国立公園協会)	Indian Mountaineer	(Indian Mountaineering Foundation)
自然保護	(日本自然保護協会)	HIMAL	(Himal Magazine, Nepal)
グリーンパワー	(森林文化協会)	산 山	(韓國山岳会)
尾瀬の自然	(尾瀬の自然を守る会)	산악인 山と人	(大韓山岳連盟)
Oak Villadge通信	(Oak Villadge)	山野	(中国登山協会)

—十一頁より—

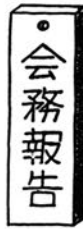
に比較的良く揃っておりますので、海外登山を計画される方はご利用下さい。

次回は海外の地図(「山岳地図」)のリストを掲載致します。

▼同様に登山計画には現地情報を盛り込んだガイドブックも役立ちます。七月に昭文社より「山と高原地図」の最新版全五十六冊を寄贈していただきました。また山と溪谷社の「アルペンガイド」も揃っておりますのでご利用下さい。

今後は英文ものを中心に海外の登山ガイドブックも積極的に集める方針であります。

(図書管理委員会)



(新支部長紹介)

◎山形支部長 大橋克也(二五三四番)

東京生まれ、仙台で育つ。昭和二十四年東北薬科大学卒。東北大学抗酸菌病研究所病院勤務を経て、昭和三十四年山形市に移り、東北中央病院薬剤部長を歴任。現在は山形県薬事情報センターに籍をおかれています。

昭和二十一年二口峠に初登山以降、

二十二年から宮城・山形県境の沢遡行を行い多くの足跡を残す。二十三年から積雪期の蔵王・屏風岳東面に挑み、昭和三十一年五月五度目の挑戦で完登。二十四年三月飯豊焼曾根から大日岳へ登った他、各季節に飯豊・朝日連峰を丹念に歩かれています。

本年四月、村上支部長の後を受けて、支部長に選出されたが、目下のところは、自然保護問題で分れている支部の考えを、自由に発言し合いながら、接点を見つけていくよう努力したいとのこと。その手腕が大いに期待されている。

仙台一高山の会、東北大山の会所属六十一歳。

◎宮城支部長 西郡光昭(七三五四番)

宮城県出身。信州大学山岳部OB。昭和三五〜四十九年長野県在住時、南北中央アルプスを中心に登る。南米ペルー・アンデス、エベレスト・スキー隊、信州大学ネパール・ヒマラヤ登山隊に参加。昭和四十九年より宮城県に在住、現職は宮城県保健環境部次長。この間宮城県内の山を中心に東北の山を登り、日本ヒマラヤ協会のカシミール登山隊、カラコルム登山隊にも参加、今春支部長に就任するや、直ちに中国四川省の羊拱山登山隊に隊長として参加、登頂に成功している。行動派の支部長として、支部員の信望を集めている。

る。

本会には昭和四十七年四月に入会。他に信州大学学士山岳会、日本ヒマラヤ協会にも所属している。五十二歳。

(Y・M)

山研・ナムチャ合同募金応募状況

(九月七日現在)

皇太子殿下と寛仁親王殿下からもご応募いただき、累計で一千万円を突破しました。会報がお手元に届くころ、登山隊は頂上を狙っている頃でしょうし山研も解体に着手している筈です。なお一層のご支援をお願いいたします。

- (六十口) 早川種三、(四十口) 国分勘兵衛、(三十口) 山田会長、(二十口) 辰沼廣吉、高山忠四朗、中澤眞二、水口武彬、渡辺宏之、村木潤次郎、宮下秀樹、松田祥二、(十四口) 笠原藤七、(十二口) 石橋正美、(十口) 穴田雪江、中村進、斎藤惇生、菊地文雄、小林春男、武村市太郎、岡部みち子、金子一夫、小倉童子、原蕃、(六口) 秀島敏、木村勝久、安彦六郎、外山義夫、織田沢孝全、織田沢美知子、中嶋啓、原田雅弘、岩田継正、太田敬、水谷透・眞砂子、田口二郎、広沢毅一、鳴原一男、金子浩、山田博茂、(五口) 皇太子殿下、寛仁親王殿下、中村武雄、宅間清子、(四

- 口) 佐近丸彦、川田善朗、深川安明、平野紀子、清野恒、渡辺兵力、齊藤敏男、高見和成、鈴木嶋夫、賀嶋増造、高橋祥子、守山進太郎、泉尾忠志、阿部郁夫、磯野剛太・温子、河野之保、山下六郎、小田稔、牧潤一、金子泰助、西原幸子、塩原國隆、大塚玲子、石澤六郎、鈴木裕代、川島栄三郎、高原三平、川田哲二、(三口) 野田福五郎、岡田光行、太田繁、山平靖、乾能尚、(二口) 轟昌一郎、高田光政、平田大昭、山崎隆史、小林基子、鷺崎好、前田直己、山戸潔、遠藤克昭、齊藤チヨ、高野洋志雄、青木昇、河合文恒、松長晴利、丸山武彦、田口幸子、川上正義、春山政衛、松村潤、鈴木康洋、原利恵子、町俊一、長尾登之助、農大農友会山岳部、坂井八郎、高澤光雄、熊谷松雄、大島秀夫、込田伸夫、高本孝、藤川三郎、蓮實淳夫、北里大学山岳会、児玉政彦、戸山芳一、下山壽、横山宏太郎、徳田昌久、大橋基光、山本一夫、荻窪山百合の会、北村皆雄、本多矩、川村旭、近藤友好、近藤久子、伊藤昌彦、石間信夫、荒木壮一、島津慶子、風見武秀、高橋通夫、安齊正明、笠原正明、林桂子、内村鉄次郎、鈴木昭、柴沼武子、浅野清彦、桑田結、石川雄二、新井信太郎、足立勤、松田敏男、堀川浩、川上隆、園山鋭一、福島勉、三上正治、平田恒雄、板橋元一、田川

芳子、名児耶達男、加藤義明、岩佐邦彦、森本市郎、若月二郎、草野洋一、市村幸夫、後藤泰治、久我文子、久我良房、瀬川忠四郎、竹内研一、水野公男、名須川浩、榎本進、福田光子、平野征人、本橋徳一、佐藤恒雄、霜田嘉一、森山久夫、加藤達三郎、永尾和夫、阿部鉄男、前田製管(株)山岳部、田高卓士、松野賢珠、月原俊二、本田誠也、小森光子、廣瀬幸治、大坪重遠、山村

図書貸し出し規定

図書管理委員会

*原則として日本山岳会所蔵の図書／資料の貸し出しは致しません。但し例外として次の場合は期限を限って貸し出しを行います。

(1)会務に必要な資料として使用する場合。

(2)本人がその書籍／雑誌／資料を所持しないにも拘わらず、『山岳』『山』などに書評、図書紹介を担当理事から依頼された場合。

(3)会務に関わる事項で、理事会の承認を得た第三者が資料として使用目的を明確にし、期間を限って利用する場合。

※前記に該当する場合は以下の通りの条件を厳守すること。

孝夫、八木原博子、吉永孝行、津田友枝、沖允人、丸尾祐治、猪股清郎、柴田篤志、茂木洋子、渡辺多佳子、土田幸雄、中馬重人、和崎俊雄、山田和雄、岸栄、中川智康、原一平、村木富士、籠谷順司、石田喜八、奥山文次、塚本福次郎、藤井保、樋口公臣、本田卯太郎、大橋秀一郎、赤羽昭夫、原田洋、加藤春夫、平井和雄、伊藤敏、中川久、廣永俊一、織内信彦、安藤文子、二階

①貸し出しの期限は十日以内とします。もしそれを越えて利用したい場合は、貸し出し期限の延長の連絡を事務所に届け出て下さい。

②貸し出しの際は台帳に、日付、氏名、使用目的、連絡先、返却予定日を記入して下さい。

③返却の際には、前記台帳を確認の上事務所に返却して下さい。

④貸し出し期限を過ぎても返却されない場合は事務所より催促状を出す場合があります。期限は厳守されることを期待します。

⑤もし貸し出された図書／雑誌／資料を破損または紛失した場合はその状況説明も含めて報告し、しかるべき金額を弁償して頂きます。

※なお貸出を禁止している貴重書等も図書室での閲覧は可能です。

堂匡一郎、後藤三郎、安江安宣、藤田友生、足立孝也、和田力造、北林嘉鶴子、松原尚之、安藤信正、豊中貞子、佐藤芳久、広島三朗、金山淳二、矢尾板奈々子、矢尾板二郎、新井陽一郎、中村一雄、河上鏡治、岩堀瑞子、平柳一郎、森亮二、富田記一、小倉浩嗣、赤松光、小池恭弘、草木陽一、佐藤正倫、宮本忠直、加藤英彦、藤澤敦、田中淑子、川北昌博、山口峯生、米本隆夫、小川九三雄、小池実、服部敬二、西田哲彌、貞谷聖司、熊谷とも子・洋、福田勝一、妹尾律子、妹尾幸雄、芳賀孝郎、井古田忠男、池田智恵、後藤三男、野澤隆一、細川俊彦(一口)小林勝、金尾實、宇田川允敏、平野喜一、熊田宗次、梅本実、小塩丘平、富山地方鉄道(株)、森田勇造、長岡次郎、石坂良一、桑原信夫、各務良幸、鈴木孝、佐々木孝雄、菊池健介、松野豊、渡辺一、伊佐泰治、内山貞男、木野光一郎、藤江幾太郎、境野俊男、小野庸(累計五百九十二名、二千六百六十九口、一千万二千九百九十九口)



(8月)

- 1日 女性懇談会
- 3日 三水会のみの中
- 6日 常任募金委員会、会報編集委員会

会

8日 青年部
29日 募金委員会、女性懇談会、アルパインスキークラブ
8月来室者252名

会員異動

物故
菊地正蔵(一〇七八・永年会員)
退会
小林正雄(六一〇一)
終身会員へ
広島三朗(六五八八)

タンポチエ僧院再建協力
募金者「芳名」

一万円ー平田大昭
九月二日現在累計四四六名、累計金額五、九四二、二九八円



この電話でもお知らせしています
☎ 3234-6659

「山岳総合索引」の刊行

六月の会報でお知らせしました「山岳総合索引」(編集・日本山岳会山岳編集委員会、製作発行・緑蔭書房)が十

一月に刊行になります。編集・製作に要した時間と労力は形容を絶するものがありますが、岩淵泰郎氏をはじめとする有志の方々(会員、非会員)の協力が実を結び、大変みごとな、本格的索引になりました。会員特別価格を設定しましたので、ぜひご利用ください。

- * B5判上製・ケース入り 本文四〇〇ページ
- * 定価 二万七八一〇円(税込み)
- * 会員特別価格 一万八〇〇〇円(送料込み)、会務所で直接購入の場合は一万七〇〇〇円
- * 申込みは現金書留で日本山岳会事務局へ
- * 会員特別価格はひとり一部に限る。

「山岳総合索引」編集係

●飯豊の高山植物講演会

飯豊の高山植物をプロニ一版乾板によるスライドで楽しく解説します。

講師 会津高田町立旭小学校長
小荒井 実氏

日時 十一月二十二日(金) 六時半より

場所 山岳会ルーム

科学研究委員会

●講演会のお知らせ

「防げないか冬の孤立遭難」

期日 十一月二十八日(木) 午後七時より

場所 日本山岳会集会所

講師 富山県警察山岳警備隊長 谷口凱夫氏

青年・学生・遭対委員会

(予告)

今年の年次晩餐会は十二月七日、新高輪プリンスホテル・パミール館で行います。ふるってご参加下さい。

訂正 七月号(五五四) 十八頁新入会員(復活)欄で下から十四行目の古川隆士とあるのは古川隆士、八月号(五五五) 十九頁同欄上から十八番目、古市進(69)とあるのは(60)の誤りにつき訂正します。

編集後記

▼この会報が皆さんのお手許にとどく頃は、編集子はナムチャのB・Cにいます。ナムチャの勇姿と登山隊の活躍を目の当りにしてきます。

▼その為、編集に多少の遅れが出るかも知れませんが、ご容赦のほど。小倉

平成三年十月二十日発行

102 東京都千代田区四番町五一四

サンビュウハイツ四番町

発行所 社団法人 日本山岳会

発行者 山田 二郎

編集代表 小倉 厚

電話東京(326) 四四三三

振替口座 東京三二四八二九番

東京都港区赤坂一―三―六

赤坂グレースビル

印刷所 株式会社 技報堂